

2010年度サーベイ&フィードバック・プロジェクト活動計画

プロジェクトリーダー 児玉靖司

1. 「学生による授業改善アンケート」について

(1) 見直し

- ・昨年度より変更された「学生による授業改善アンケート」の項目を評価し、改善点を検討する。

(2) 集計方法の検討

- ・新しいGPAとのクロス集計方法の検討をする。

(3) 特別集計の評価

- ・各学部の授業種別のカテゴリを検討する。
- ・業者と連携し、新たな特別集計方法を提案する。これまでに実施した特別集計についてまとめる。

(4) 集計結果の有効活用

- ・以上と関連して、授業改善に利用していただくため、「学生による授業改善アンケート」が、他大学においてまた本学において有効に活用されている事例を集める。

2. 厳格な成績評価の方法の調査と紹介

(1) GPA制度

- ・各学部・研究科などの教育の主体が積極的にFD活動に取り組んでいただく支援をするため、他大学および本学各学部・研究科独自のGPA運用の実例を集め、紹介する。
- ・なお、2007年9月18日に出された「学士課程教育の再構築に向けて（審議経過報告）」（中央教育審議会大学分科会 制度・教育部会 学士課程教育の在り方に関する小委員会）をみると、「3つの方針」の一つとして「きめ細かな指導と厳格な成績評価」が挙げられている。同報告書の25ページには、きめ細かな指導と厳格な成績評価を行うためには、「GPAをはじめとする客観的な評価システムを導入し、組織的に学修の評価に当たっていくことが強く求められる。その際、GPAの導入・運用に当たっては、国際的に認知されているGPAの一般的な在り方に充分留意すべきである。また、成績評価の結果については、基準に準拠した適正な評価がなされているか等について、組織的なチェックが働くような仕組みが必要となる」とある。

(2) 学生成績ポートフォリオ

- ・卒業時における学生の総合的な学力を、より具体的・立体的に示す方策(たとえば、digital portfolio)に関して、学外の事例を集める。

3. 「学生による授業改善アンケート」のWEB化について

(1) 期首・期中のアンケートについて、予算化を含め、後期より実現化を目指す。

(2) 期末アンケートについて、どのような形態でWEB化し実施するのがよいか検討する。

以上